View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

brought to you by CORE

Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

# Clinical features of slowly progressive type 1(insulin-dependent) diabetes mellitus: a comparative study based on degree of obesity at diagnosis of diabetes



| | |
|---|---|
| 著者名 | 保科 早里 |
| 発行年 | 2016-04-15 |
| URL | http://hdl.handle.net/10470/31589 |

# 主 論 文 の 要 旨

Clinical features of slowly progressive type 1(insulin-dependent) diabetes mellitus: a comparative study based on degree of obesity at diagnosis of diabetes
(緩徐進行 1 型糖尿病の臨床像：糖尿病診断時の肥満度による比較検討)

東京女子医科大学　内科学（第三）教室
（指導：内潟安子教授）
保科　早里

Diabetology International 第 6 巻 第 2 号 91 頁～97 頁
(平成 27 年 5 月発行)に掲載

【要　旨】

徐々にインスリン依存状態となる緩徐進行 1 型糖尿病(SPIDDM)は肥満があると 2 型糖尿病と誤診されやすい。SPIDDM の適正診断のために臨床的特徴を DM 診断時を中心に後向き調査した。対象は 2004 年から 2010 年に当科に入院した SPIDDM51 名。糖尿病(DM)診断前の過去最大時、DM 診断時, SPIDDM 診断時 3 時点の BMI、DM 診断から SPIDDM 診断までの期間、DM 診断からインスリン治療開始までの期間、SPIDDM 診断時の抗 GAD 抗体価と C ペプチドインデックス(CPI)等を診療録より抽出した。BMI の 22kg/m$^2$ 未満、22～25 kg/m$^2$、25kg/m$^2$ 以上をそれぞれ非肥満、標準、肥満とした。また、抗 GAD 抗体の 1.5～10U/ml、10U/ml 以上を低抗体価、高抗体価と定義した。対象者の 67%、53%、26%が 3 時点で肥満であった。DM 診断時 DM 診断からインスリン治療開始までの期間は 69 ヶ月(以下中央値)で、DM 診断時非肥満群(15 ヶ月)より有意に長期であった(p=0.026)。SPIDDM 診断時の CPI は DM 診断時肥満群、非肥満群の全員 1.0 以下であった。低 GAD 抗体価群は高抗体価群に比べ DM 診断から SPIDDM 診断、インスリン治療開始から SPIDDM 診断の期間が長期であった(p=0.035, p=0.032)。過去の肥満歴や DM 診断時の肥満に関係なく、糖尿病診断時に CPI≦1.0 の場合は SPIDDM を積極的に疑う必要がある。